

標準的な質問票とメタボリックシンドロームとの関連性について

公益財団法人 郡山市健康振興財団 健康センター

○ 菅野 美土里

【目的】

平成 20 年度から特定健診が始まり、同時に標準的な質問票が導入され各機関で異なっていた健診時の質問が統一された。今回、特定健診において聴取する標準的な質問票の項目とメタボリックシンドローム（以下、メタボ）に関連性があるかを検討した。

【対象・方法】

平成 20～23 年度当センターで特定健診を受診した者で血圧・血糖・脂質で薬物療法を受けていない者 13,572 名（男性 6,796 名、女性 6,776 名）。メタボ該当者とそれ以外（予備群該当・非該当）の者の 2 群に分け、メタボと標準的な質問票の項目との関連について男女に分けて分析した。

【結果】

メタボと関連している質問票の項目は、男性で「20 歳からの体重増加」***、「身体活動量」**、「食べる速度」*、「飲酒量」***、女性では「20 歳からの体重増加」***、「歩く速度」*、「食べる速度」*であった。（* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$ 、*** $p < 0.001$ ）

【考察】

男女ともに「20 歳からの体重増加」があり、「食べる速度」が速くなる程メタボの確率が高い。男性では「飲酒量」が多いとメタボの確率が高い。メタボ予防・改善のためには 20 歳時の体重を基準として維持・改善が重要と考える。さらに、男性においては飲酒量を控えることが重要である。また、男性では日常生活での「身体活動量」が多いと、女性では「歩く速さ」が速いとメタボのリスクが低い。日常生活の活動への意識を持つことが、メタボ予防・改善に繋がるのではないか。一部だが、標準的な質問票とメタボとが関連していた。今後効果的な保健指導のために、活かしていきたい。